

# この子たちの夏

## 1945・ヒロシマ ナガサキ

構成・演出 木村光一  
美術 石井強司  
照明 古宮俊昭  
効果 深川定次  
舞台監督 井川 学  
短歌・俳句の朗読 鈴鹿市内の高校生以上のみなさん

出演(五十音順)



かとうかず子



旺なつき



高橋紀恵



島田歌穂



原日出子



根岸季衣

唯一の原子爆弾での被爆国である日本。日本人としての経歴を記録でなく記憶に留めたいと、構成・演出の木村光一が遺稿や手記、詩歌など膨大な資料の中から、テーマを「母と子」に絞って朗読劇としてまとめたのが本作品です。

1985年の初演以来、全国47都道府県、396市町村で786回の公演を行ってきました。

2011年、長年制作の母体であった「演劇制作体 地人会」から引き継ぎ、実行委員会形式で新たに生命を吹き返すことが出来たことは、あの原爆で命を落とした彼らの死の上にある。今、を生きる私たちにどうして、大切なことであつたと思えます。

死を直前にし、残した子供たちの言葉。大豆ご飯を食べなかつた息子を叱つたまま補習授業の学校へ送り出した母の後悔。自分の目の前、校庭で親兄弟を茶屋にふすという想像も出来ない体験をせざるを得なかつた少年の思い……。

普通の生活を送っていた人々の言葉が静かに私たちの心に響りかけます。それは人を思いやる気持ちや優しさに溢れ、そしてもつと生きなかつたという思いが見えかくれしているのです。

そこに素晴らしい営みを感じる時、今の私たちは何者なのかと振り返らざるを得ません。

その声と想いを次の世代に引き継ごうと、出演者も一斉に戦後世代となりました。戦争を知らない人間が、これからは担う若者たちに伝えてゆく、演劇という表現形態だからこそなし得ること。

体験のない6名の女優が、細かい演出・指導のもと、戦争の疑似体験をし、大切なものは何なのかを身体で受けとめ表現することにより新しい作品として蘇りました。

「生きよう、生き抜こう」と最後まで明日を夢みていた死んだ子供たちの、明るく前向きな言葉。暑い夏の一日、その言葉に耳を傾けてみて下さい。

寄せられた感想より

■ヒロシマ・ナガサキにバクダンがおとされて、わたしとおなじくらしい女の子と男の子がなくなりました。せんそうは、もうしたくありません。(女性・7歳)

■出演者の方々の生の声を通して、本やテレビなどでは気づくことのなかつた被爆者の気持ちや思いに気づかされた。(男性・13歳)

■生まれる前の出来事、経験のない出来事でも決して他人事でもなく忘れてはいけない今にも続く出来事だと強く強く思いました。(女性・19歳)

■この一時間半で、どれだけ人が死ぬことが言われたらどうか。人がとけるって何？皮膚剥けてはがれんの？できればもう聞きたくないけど、聞かなくちゃいけない気がする。(男性・19歳)

■戦争について教科書だけの知識しかなかつたけれど今回想見してその当時の思い、親が子供に対して思う愛情、子供が親を呼ぶ気持ち、痛いほど伝わってきました。それと同時に何も知らない自分自身が恥ずかしくも感じました。(女性・21歳)

■願うたびに色々な感情が湧いて来ます。年一回大切なことを忘れないように観ています。改憲等簡単に賛同している方、原発に簡単に賛同している方、ぜひ見て欲しいです。(女性・44歳)

■6人の女優は、この子たちの6人の母親でした。演ずる世代が違うとこんなにも印象が変わるものかと、前の舞台を見ていたので、そう思いました。祈りから希望へ、両方の舞台を見て、感じました。悲惨さだけでなく、生き抜いていく悲しい明るさも伝わってきました。(女性・52歳)

■戦後68年、当時を覚えている方が少なくなっているだけに、今の若い世代に語りつがなくてはならないことだと痛感します。生きたくて生きられなかつた人々の分も、一日一日大事に過ごさなくては……と思いました。(女性・69歳)

■被爆したその時、もし私とお母さんが一緒にいたら、きっとお母さんは火傷して腐臭をはなつ私でも抱きしめてくれるんだろうなと、母の愛を深く今感じています。(無記入)

平成27年 8月2日(日)15:00開演 鈴鹿市文化会館 けやきホール

【チケット取扱い】  
9時から／鈴鹿市文化会館 TEL.059-384-7000 (土・日・祝はTEL.059-382-8111)  
鈴鹿市民会館 TEL.059-382-0654

オープン時から／鈴鹿市観光協会(白子駅西) TEL.059-380-5595  
鈴鹿ハンター TEL.059-379-2200  
宮脇書店鈴鹿店 TEL.059-384-3737  
亀山市文化会館 TEL.0595-82-7111  
中日新聞各販売店

10時から／チケットぴあ=Pコード:443-254 TEL.0570-02-9999  
WEB／三重県文化会館WEBチケットサービスエムズネット

※小学3年生以下のお子様はご入場いただけません。  
※託児あり(※要予約・先着10名まで/有料)お問合せは事業団まで  
※購入以後のチケットの交換・返金・再発行はお断りします。  
※チケットぴあ・エムズネット以外はチケットの予約はできません。

【お問い合わせ】  
(公財)鈴鹿市文化振興事業団 <http://www.s-bunka.net>  
TEL.059-384-7000 FAX.059-384-7755(営業時間8:30~17:15/土日祝休み)

近鉄鈴鹿市駅から鈴鹿市文化会館行きの三交バス  
またはタクシーで約4分  
三交バス鈴鹿市文化会館から徒歩で約1分



鈴鹿市文化会館  
〒513-0802 三重県鈴鹿市飯野寺家町 810